



情報モラル

徳からのアプローチ

広教ニュースレター

Vol.12

広教 2012.2

HIROKYO 県立資料館・県立図書館・県立美術館

<http://www.hirokyou.co.jp>

倉敷市教委の取り組み

倉敷市における 情報モラル教育の現状



倉敷市教育委員会
倉敷情報学習センター
藤本義博 館長

白壁と赤レンガの街並みが美しい岡山県倉敷市。伝統と産業が共存する豊かな文化の町で、道徳の授業における情報モラル教育が市教委主導で推進されています。今回は、その牽引役である倉敷市教育委員会 倉敷情報学習センター 藤本義博館長にお話を伺いました。

倉敷市では、情報モラル教育を推進するため平成18年度より情報モラルのデジタル教材をセンターサーバーから小・中・高・特別支援学校95校に配信しています。そして、情報モラルの必要性と教材活用推進のための研修を行ってきました。研修に参加し、授業を行った先生からは「児童生徒の日常生活で直面する可能性のある危険性をアニメーションでわかりやすく示してあり、ワークシートも用意されているのでとても指導しやすい」と好評で、活用が進んでいます。

一方、先生方から「次から次に出てくる新しい情報技術、情報機器に対応しきれない」「子ども達に情報コミュニケーションに関する危険性を知識として教えることはできるが、知識だけでは乗り越えられない問題がある」と不安の声が聞こえてくるようになりました。

このような中で、新しい学習指導要領が告示され、道徳教育の改定の具体的事項の一つとして、「情報モラルに関する指導に留意すること」と示されました。

道徳用読み物資料 「想いとどけて」の導入

この改訂を受けて、倉敷市では平成23年9月、すべての小中学校（90校）に道徳用読み物教材「想いとどけて」を整備しました。小学校低学年・中学年・高学年・中学校と発達段階別に作られたこの道徳用読み物教材は、道徳の内容項目をねらいとして構成している読み物資料の背景に、情報モラルを盛り込んでいく点に特徴があります。たとえば、小学校中学年向けの資料「クラスのマーク」は、学級のシンボルマークを考える宿題に悩んだ主人公が、絵の上手な友達と考えたマークを描き写して提出し、それが採用されたものだったところ、実は友達と考えたものだったと先生に告げるというお話です。道徳の授業では、子ども達は資料を読み、正直に告げることのむずかしさを共有します。そして、どう考えて正直に言えたかを主人公になりきってしっかりと話し合うのです。ここでは、知的所有権の問題が背景にありますが、知的所有権そのものを教えるのではなく、主人公自身の良心や友達の気持ちを考えることで、知的所有権を尊重する「心」をじっくりと育てようとするものです。子ども達は、将来に渡って知的所有権の様々な問題に何度も直面します。それゆえ、一つの事例で人の作品を勝手に使うことは法律違反であるという作品を勝手に使うことは法律違反であるというだけでなく、道徳からのアプローチとして、善いか悪いかの判断をするものになる「心」を育てます。一人一人が自分で考え、判断する力を育てるために、道徳の読み物資料が必要だと考えて「想いとどけて」を導入しました。



教員研修 道徳からのアプローチ

倉敷市では、平成23年度に主として道徳教育推進教師を対象に「道徳教育」と「情報モラル教育」をつなぐ教師の指導力向上を目的として教員研修を4回にわたって進めています。

第1回、第2回は、行本美千子先生（日本道徳教育学会近畿支部長）をお招きして、講義と読み物資料の分析を学びました。第3回は、横山利弘先生（関西学院大学 教職教育研究センター教授）、行本美千子先生、平松茂先生（岡山市立岡北中学校長）を講師にお招きし、講義とグループによる演習を組み合わせた一日研修を行いました。

横山利弘先生は「ネット上でのコミュニケーションや情報を扱う際に、特別なモラルが求められるのではない、正義感や思いやり、相手の立場に立つて考えるといった当たり前のモラルの重要性は変わらない」と、情報モラルと道徳のつながりを強調され、授業で使う資料の読みについては、国語科的な読みとの違いを挙げながら解説して下さいました。午後からは、受講者全員が5、6人の学年別グループに分かれて資料分析の演習と授業案の発表を行いました。研修に参加された先生からは、「読み物資料を使った道徳の授業への意欲と研修の必要性が高まりました」「とても実践的なお話とわかりやすい方法を聞かせていただき本当に来てよかったです」と前向きに受け止めていただけた研修となりました。最後の第4回の研修では、読み物資料を使った道徳の実践発表と次のステップに向けての課題を共有して今年度をまとめ、次年度へつなげていく予定です。

倉敷市教委として、今後も道徳の授業における情報モラル教育のための授業展開例を普及啓発し、授業実践により児童生徒の情報モラルに関する道徳的実践力を高めたいと考えています。

倉敷市教育委員会
倉敷情報学習センター

<http://www.kurashiki-oky.ed.jp>

学校を訪ねて



情報モラル教育を先進的に取り組んできた岡山県倉敷市教育委員会 倉敷情報学習センター。その倉敷情報学習センターが新たな取り組みとして「道徳からアプローチする情報モラル教育」をスタートさせました。その第一歩は、道徳の専門家を招致しての研修です。今年度はすでに3回の研修が行われましたが、その甲斐もあって市内の小中学校では情報モラルの授業実践が次々と報告されています。道徳の時間に行われる情報モラル教育。倉敷市内小中学校の授業実践をレポートします。

倉敷市立中島小学校

第2学年（1～4組）

すべてのクラスで同一の読み物教材「でんわばんごう」（想い とどけて）を活用した授業が行われました。資料は、友だちの個人情報をつかり漏らしてしまった主人公が悩んだ末、自分の失敗を正直に打ち明けるというお話です。授業のねらいは、失敗した主人公を批判したり、個人情報の扱い方を教えたりするのではなく、「失敗を認めて、相手に誠実に接していこうとする道徳的实践意欲を育てる」ことでした。

子ども達の発表

- ・正直に言えてよかった
- ・ゆるしてくれてありがとう
- ・次からは気をつけよう



倉敷市立箭田(やた)小学校

第3学年

「著作権」を背景にした読み物教材「クラスのマーク」（想い とどけて）を活用した授業が行われました。

子ども達は、安易な気持ちで友達の名前を自分のものとして発表してしまったことや、正直に言えなかった主人公の気持ちに共感しながらも、主人公がどう考えて正直に言えたかをしっかり話し合うことができました。



倉敷市立児島中学校

第2学年（1～6組）

情報モラルの事例を取り扱った指導が積極的に行われている倉敷市立児島中学校。今年度から新たに道徳からのアプローチとしての取り組みが始まっています。

活用した読み物教材は、電子掲示板の誹謗中傷を背景にした「ゴール下のファウル」（想い とどけて）。本当の友情とは何かを真剣に話し合いました。

